

ひまわりからの メッセージ

165号

2025. 9. 8

NPOひまわりの花内
西濃園域
発達障がい支援センター

発行人：中野たみ子

トモニ療育センター

河島淳子先生を偲んで



二年程前のことです。岐阜市の小児科医の工先生が突然メールをいただきました。「河島先生が、もう一度岐阜県に行きたいとおっしゃる中野先生に連絡するようにとのことでした。岐阜にいらっしゃる時にはお手伝いしていただけますか。」「もちろんです。楽しみにしています。」とお応えしたのでしたが、残念ながら今年の二月に先生は永遠の眠りにつかれてしまいました。

河島先生にはじめてお会いしたのは十七年前のことです。当時私はひまわり学園長として県の委託事業の「西濃園域発達障がい支援センター」を受託したところでした。先生は岐阜県自閉症協会の招きで来られ、講演をなさったのです。小児科の医師であった先生は、三人目に生まれたはじめの男の子が自閉症と知り、医師をや

めて、その子の育児に専念することにされました。

先生はその著書の中で「誤った育て方で彼を歪めてしまっただけではない。無知から誤ったやり方で療育することは罪なことである。彼の人格に対して許されることではない」という思いから、まず自分で出来る限りの勉強をこつこつとしてきた」と書かれています。そして「様々な情報の中から、息子にふさわしいと思われるもの、納得のいくもの、必要と思われるものを選択し、ミックスし、家庭で取りくめるものに変えていかなければならなかった」と子育ての苦労にも触れつつ、「家庭は社会生活の基礎を学ぶ場で、一番重要な療育の場だと考えています。私は親がすぐれた療育者にならなければ子どもの成長は望めないと考えています。」とも書かれています。この文章が書かれた当時は息子さんは二十歳を超えておられましたので、先生は途方にくれている若いお母さんたちのために新居浜にトモニ療育センターを立ち上げられ、全国から多くの親子が先生のもとを訪れて指導を受けるようになっていました。翌年、私は、どうしても先生の療育の实践が見たくて、無理にお願いをして、四国まで足を伸ばし、トモニ療育センターの見学をさせていただくことにしたのでした。あれから十六年、私が先生のご逝去を知ったのは一月程前でした。今月号は、もう一度お会いしたかったという思いで特集を組みました。



揺るぎない

信念と母の愛

2009. 9. 30.
ひまわり学園通信
「ひまわり」より
転載

トモニ療育センターの見学を終えて、私はひまわり学園の通信 三五三号に次のような文章を載せました。

先生は将来子ども達が社会の中で生きていける自立した人間に育てることを目指しておられます。「自分の好きなことはやるけれど嫌なことはやらない」というように育ててしまったり、その子は社会の中で生きていきますか？嫌なことは大声をあげたり暴れたりして、そうすれば許してもらえろというように学んでしまったりどうなりますかと、笑顔の先生が目だけはまっすぐに真剣に私の目を見て問いかけられました。

トモニ療育センターに通う子どもたちには、毎日のマラソンが課されます。療育の始めと終りに挨拶をすることは当然ですし、遊びではなく課題が課されます。歩けるようになったら甘えて抱っこやおんぶはしない。食事は椅子に座って食べる。立ち歩いたら食べさせない……自閉症の子どもたちが一度学んでしまうと修正がききにくいことを知っていらっしゃる先生を敬しいと思う人もいるでしょう。しかし立派に、そして穏やかに生きてい

らっしゃる息子さんを目の前にした時、母のゆるぎない信念と愛、そして家族の支えの大ききを感じました。同時に「寄り添い、やがて好きなことをやらせればいい」という危うさも……

さて、この文章を読まれた方は、虐待じゃないのかと思われたのではないだろうか。それは私の文章のせいです。食事は座って食べることを教えるために、立ち歩いたら食器を引いて、座ったら食器を出すということですね。立ち歩く子を追って親が食べさせるなどということとは決してしないし、食べさせないということでもないのです。

今回、河島先生の「自閉症スペクトラム児・育児と教育」を改めて読み直してみました。最近は何でも子どもの意思を尊重し、やりたいことをやらせることが良いことだという風潮もあり、子育ても他人任せにしているところとする保護者の方も増えてきているのではないかと危惧される中で、私たちはどうしていくべきなのでしょう。

河島先生は「障害には三種類ある」と書かれています。

- ① 障害そのもの（脳の損傷）
- ② その結果の能力障害（奇妙な話し方、動作、運動障害など）
- ③ 能力障害からくる社会的障害（差別、警戒、違和感、無理解、非協力、無知）

親にとっては、この社会的障害が一番つらい。特に学校の先生と呼ばれる人たちの言動によって家族は大きく一喜一憂させられる。教師は暴君にも神様にもなりうる。教師は人格者であると共に、高度の指導技術を持っていることが望まれる。社会的障害を少なくしていかなければ弱い立場にあるこの人たちは、いかに努力しても幸せにはなれない。

そして、「保母・教師など療育に携わる人へ」と題して六項目があげられています。

① 療育におけるリーダーである。従って影響力が大きい。

② 親の気持ちを察し、共感できるか否か。

その子の人生の一定期間に関係し、その間だけ療育の責任を持つ故に他人事になってしまう。療育には愛(共感)と強い信念とエネルギーが必要である。親の心情と置かれた状況を我が事とし、愛とかなしみを感取し、その立場になって子供を慈しみ見つめる熱い思いがなければ育てられない。

③ 脳の障害は容易なものではない。育てる上で多くの困難がある。

自閉症児は分かりにくい。共感しにくい。歪んでいる。更に歪む。コミュニケーションがうまく取れない。子供がつかめない。指示に従わない。多くの問題を子供の故にし、諦めがちである。諦めからは何も生まれない。情熱を必要とする。切実な思いから工夫が生まれる。

④ 適切さと一貫性と継続性の全てが揃っている場合のみ、よりよい成長がある。

一貫性と継続性を維持するためには、療育関係者のチームワークが必要である。子供の人生の流れ(生活年齢)に添って一貫した適切な療育をリレーしていかなければ、さまざまえる舟となって目的地へはたどりつけない。

⑤ 謙虚に母親の思いと共に子供に関する情報を得ることがコミュニケーションの第一歩である。

⑥ 無知は罪である。

医師は病気について熟知し、自分の決定した処置、処方に責任を持つことを当然とされる。直接生命にかかわることだから好意・善意だけでは医療行為はできない。間違った医療は命を奪う。命を損なう。家族は治してもらって当然と思っっている。困難な病気には最高の医療が必要である。

教師も人間の最も大切な魂・精神を扱う。しかし、子供は適切ではない取り扱いをしても、すぐに結果は出ない。適切でない教育の結果は、子供が大人になる頃、だんだんと明らかになる。しかし、出てきた困った結果に対して誰も責任を持たず、「障害児がもともと重度であった」とされ、家族も納得している。

※子育ての各論については次号で紹介します。



さて、皆さんは河島先生のこの文章を読んで、どの様に感じられたでしょうか。私は、「無知は罪である」ということ

は、この数十年の自分の療育を考えていました。

あのお母さんには、もっとこういう言葉かけが必要だ。

たのではないか、Aちゃんには、別の働きかけが出来たの

ではないか、Bさんの噛みつきや暴力に対しての対応は、

本当に適切であったのかどうか……と。

河島先生は、自閉症の吾が子を育てる中で、教科学

習に関しても、その子に見合った無理のない学習内容

を模索してこられました。それを今ここで詳しく述べる

ことはできませんが、自立に向けて見通しをもって育てると

いうことが基本にあると思います。適切に課題学習

を進めていくためには、まずその子自身の力を詳細に

知る必要があります。いわゆるアセスメントです。それ

を怠ったまま「いつもくしゃみしません」とか「指示を聞い

ていません」とか、「らが出来ません」と言ってみたとこ

で具体的な対策は出てこないでしょう。

幼児期であればマッチングや分類する力があるのか、

大きさ、色、形などが判断できるのか、数字の見分けはつ

くのか、数概念はどこまで育っているのかを知る必要

があるでしょう。小学生であればどんな領域が強く

て、どんな領域を不得手として嫌がるのか様々な検

査を駆使したりしながら実態像にせまっていくことになるの
でしょう。

私たちは職業柄、自閉症の子にもADHDの子にも、理由

は分からないけれど困っている子にも接していかねばなりませ

ん。自分の持つ知識や経験を最大限に駆使して子どもたち

や保護者の方と向き合っていかなければなりません。でも、無力

だなあと思います。自分の無力さに打ちひしがれることも一度

や二度ではありません。けれど諦めてはならないのだと思います。

河島先生は、「諦めからは何も生まれません」とおっしゃっていま

す。私たちは家庭と協力し合って子育てをしていくパートナー

です。少くとも私はそう考えています。目の前の子の十年先、二

十年先を見通しつつ、保護者の方と一緒に歩んでいく中で、

親子を支える人の輪が広がり、支援を引きついでいく体制が

作られていくことを願うのです。関わった私にちも、そして親

さん達が亡くなってしまった後も、本人が豊かな人生を送ってい

くことができるように……まだまだやるべきこと、やらねばな

らないことが山積みです。そう思いませんか？

<10月の予定>

- | | | |
|-------|----------|----|
| 10/1 | ピアサポート | 講話 |
| 10/2 | 安井(幼) | |
| 10/15 | 赤坂(こ) | |
| 10/28 | ゆりかご(こ) | |
| 10/20 | センター親の会 | 講話 |
| 10/3 | 仁木小 | |
| 10/21 | 南小 上石津学園 | |
| 10/25 | 笠郷小 | |
| 10/22 | 療育スタッフ研 | |

